

平成 25 年度調査報告書
「経済連携協定外国人看護師における国家試験合格後の問題」
その I : 国家試験合格者受け入れ施設の課題

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的
2. 調査の対象
3. 調査の時期及び方法
4. 回答の状況
 - 回答総数
 - 回答率

II 調査の結果

1. 受け入れ施設での国家試験合格までの教育支援
 - 1) 日本語教育支援
 - 2) 専門学習支援
2. 国家試験合格後の状況
 - 1) 外国人看護師の業務評価
 - 2) 外国人看護師の日本語能力
 - 3) 外国人看護師について（長所、短所、リスク管理上の問題）
 - 4) 外国人看護師と異文化
 - 5) 国家試験合格後に必要な支援
 - 6) その他、コメント

III 調査総評

平成 26 年 6 月 25 日
NPO 法人外国人看護師・介護福祉士教育支援組織
調査責任者 青野淳子

I 調査の概要

1. 調査の目的

経済連携協定（EPA）で来日した看護師候補者のうち国家試験合格者（外国人看護師）について、受け入れ施設の側から合格後の課題を検討する。

2. 調査の対象

第100回、第101回及び第102回看護師国家試験合格者受け入れ施設合計66施設のうち帰国（7施設）または転院（2施設）のため合格者が不在（ゼロ）となった9施設を除く57施設に調査票を郵送した。

3. 調査の時期および方法

平成25年10月～平成26年2月

平成25年10月初旬に調査対象施設へ郵便にて調査票を送付し、郵送にて回答（無記名）を受領した。

4. 回答の状況

22施設（38.6%）より回答を得たが、うち1施設では合格者が休職中（産休）のため実質回答数は21施設であった。回答の時期は10月9日から11月7日までに20施設、1月14日に1施設、2月10日に1施設であった。

表1 回答施設数及び回答合格者数

	施設数
回答施設数	22（実質回答数21）
回答率	38.6%（22/57）

表2 回答施設における調査対象者の合格年度と人数

	施設数	調査対象者数
2011年（100回）合格者	4	4名
2012年（101回）合格者	11	15名
2013年（102回）合格者	9	13名
合計	24*	32名

*2施設において合格年度の異なる複数の対象者が存在する。

本研究は当法人倫理委員会の承認を得ております（承認番号：承2013002）。

II 調査の結果

1. 受け入れ機関（実質回答施設数 21）での国家試験合格までの教育支援

昨年度の調査において、2011 年度及び 2012 年度合格者については調査済みのため 2013 年度合格者についてのみ調査した。

結果は集計中。

2. 国家試験合格後の状況

1) 外国人看護師の業務評価

[方法]

看護師業務 17 種類について、外国人看護師の業務成績を評価した。評価方法として、外国人看護師が日本の国家試験に合格し正看護師として入職したと同時期に新人看護師として入職した日本人看護師の平均的能力に比較し、日本人と「同程度にできる」場合を 1 とし、「やや不足」を 2、「不足」を 3、同程度よりも「優れている」場合を S と評価した。

[結果]

図 1 に外国人看護師の業務成績を示した。

(1) 1 種類以上の業務で「優れている (S)」の評価を受けた外国人看護師の人数と業務内容を表 3 に示した。

- ① (S) の評価を得た者は 5 名であった。全員に共通する業務は「バイタルチェック」、「静脈注射」、「輸液管理」である。
- ② すべての業務で日本人看護師と同等以上の成績を得た者はいなかったが、5 名のうち 1 名 (2013 年合格者) は「看護日誌への記録」を除くすべての業務で、他の 1 名 (2011 年合格者) は「看護日誌への記録」及び「退院指導」を除くすべての業務で、また他の 1 名 (2012 年合格者) は「看護日誌への記録」、「退院指導」及び「申し送りをする」を除くすべての業務で、(S) の成績であった。
- ③ 合格 3 年目 (2011 年合格者) では、全員が「バイタルチェック」、「静脈注射」、「輸液管理」、に加えて「薬配布」、「排泄介助」、「食事介助」について、日本人と「同程度にできる (1)」または (S) の評価を得ている。

表 3 1 種類以上の業務で「優れている (S)」の評価を受けた外国人看護師の人数と業務内容

評価対象者	人数%	業務の種類
2011 年合格者	75.0% (3/4)	情報収集、 バイタルチェック 、申し送りをする、報告、相談、 静脈注射 、 輸液管理
2012 年合格者	6.7% (1/15)	バイタルチェック 、検査出し、報告、相談、 静脈注射 、 輸液管理 、排泄介助、食事介助
2013 年合格者	8.3% (1/12)	バイタルチェック 、薬配布、検査診断介助、 静脈注射 、 輸液管理 、排泄介助、食事介助

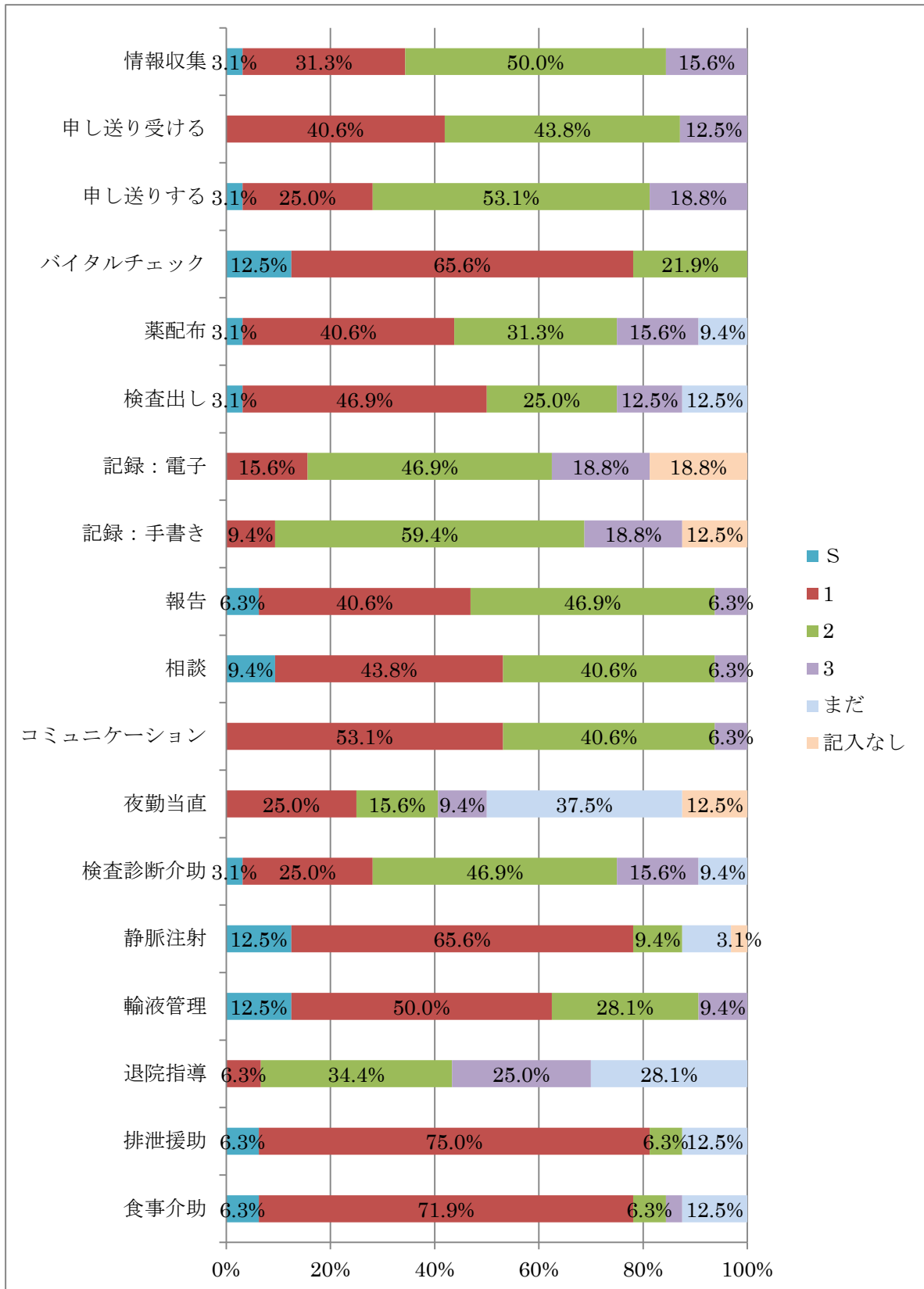


図1 外国人看護師の業務成績

外国人看護師の業務について、同期入職の日本人看護師に比較した。

S:優れている、1:同等にできる、2:やや不足、3:不足。まだ:未経験。

(2) 1種類以上の業務で「不足(3)」の評価を受けた外国人看護師の人数と業務内容を表4に示した。

- ①合格後3年目でも報告、相談、同僚・医師・患者とのコミュニケーション能力が「不足」している者がいる。
- ②夜勤当直については、まだ担当させていない施設が多い(2011 合格者 1/4、2012 合格者 11/16、2013 合格者 4/11)。
- ③退院指導についても担当させていない施設が多い(2011 合格者 1/4、2012 合格者 5/16、2013 合格者 2/11)。
- ④看護日誌への記録は、電子カルテと手書きいずれの場合も、外国人看護師は不得意であり、本調査対象者の93.5%(29/31)が「やや不足(2)」または「不足」であった。とくに手書きの場合、2011年(100回)合格者においても75%(3/4)が「やや不足(2)」または「不足」であった。

表4 1種類以上の業務で「不足(3)」の評価を受けた外国人看護師の人数と業務内容

評価対象者	人数%	業務の種類
2011年合格者	25.0%(1/4)	報告、相談、コミュニケーション、
2012年合格者	73.3%(11/15)	情報収集、申送り受ける、申送りする、薬配布、検査出し、記録電子、記録手書き、報告、相談、コミュニケーション、夜勤当直、輸液管理、退院指導
2013年合格者	41.7%(5/12)	申送りする、薬配布、検査出し、記録電子、記録手書き、検査診断介助、輸液管理、退院指導

1) 外国人看護師の日本語能力について

(1) 外国人看護師の日本語能力を評価してください。

[回答の要約]

外国人看護師の日本語能力を「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」について、4段階(1:満足している、2:まずまずである、3:やや不足、4:大いに不足)で評価した。

外国人看護師の日本語能力は、全体的に「まずまずである(2)」が、「書く」の評価はやや低かった(図2)。「書く」は2013年(102回)合格者では「やや不足(3)」の評価であり、2012年(101回)合格者及び2011年(100回)合格者においても僅かな向上が見られた程度である。

(2) 外国人看護師の日本語能力でとくに不足(問題)と感じていることは何ですか。

[回答の要約]

- ①「読み」については日常業務以外の文章の読解力が弱い(3施設)。
- ②「書く」については観察ポイントを看護専門用語で書くこと、特に漢字での記入が弱い、時間がかかる、指導者がついていない必要があるなど(7施設)。
- ③「話す」については日常会話は問題ないが、言いわましが長い、難しい内容の説明・突

発的な出来事の説明・相手の理解力に問題がある場合・患者家族にきちんと伝えるなどはむずかしい（3施設）。敬語、丁寧語ができない（1施設）。

④「聞く」については日本語の細かいニュアンス、日本語独特のいい方、早口、方言は聞き取るのが困難なようである、電話の対応が困難など（7施設）。

⑤「書く」については、接続詞がむずかしい。

⑥患者教育、集団教育、電話対応は困難である。

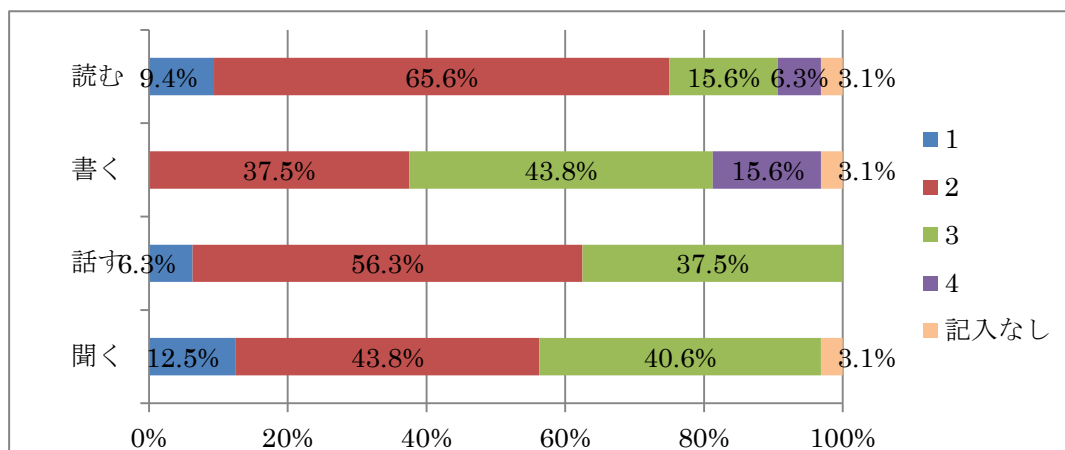


図2 外国人看護師の日本語能力

外国人看護師の日本語能力（読む、書く、話す、聞く）を4段階で評価した。

1：満足している、2：まずまずである、3：やや不足、4：大いに不足で評価した。

（3）外国人看護師は日本語能力検定試験を受験したことがありますか。

【回答の要約】

受験した外国人看護師がいる施設は、21施設のうち9施設（42.9%）、受験経験のない施設は6施設、受験者の有無を把握していない施設が1施設、記載のない施設が5施設であった。

3）外国人看護師について

（1）看護師として日本人看護師よりも優れていることは何ですか。

【回答の要約】

- ①英語ができる（5施設）。
- ②まじめ、謙虚、真剣にとりくむ（4施設）。
- ③気配りがある・細やかな配慮ができる（4施設）。
- ④学習意欲・勉強する姿勢がすばらしい（3施設）。
- ⑤患者にやさしい・人間的にやさしい（3施設）。
- ⑥笑顔がすばらしい・他人を和やかにする（3施設）。
- ⑦意思表示が明確である（1施設）。
- ⑧わからない（1施設）、とくにない（2施設）。

(2) 看護師として日本人看護師に比べて好ましくない(改善してほしい)ことは何ですか。

[回答の要約]

- ① 時間にゆっくりなところがある(2施設)
- ② 意思表示がはっきりしており仲間うちでは負の感情が態度に表れることもある(对患者については不明)。
- ③ 押し付けるような言い方をすることがある。
- ④ 感性の違いがあるようだ。笑顔で対してはいけない場面、接遇・おもてなしの心の理解が不十分である。
- ⑤ プライドが高く、できないことを認めたがらない。
- ⑥ 日本語能力。日本語ができないときにも「わかりました」答えることがある。
- ⑦ 看護記録の記入に時間がかかる、伝わる文章が書けない。
- ⑧ メモやノートをとらない。
- ⑨ 医師が行うように指示しようとする。
- ⑩ 1か月休んだ。
- ⑪ 定期的にミサに出席
- ⑫ お祈りの時間、ラマダン、恰好。
- ⑬ 特になし(7施設)
- ⑭ 記載なし(3施設)

(3) リスク管理上、問題を感じたことがありますか。ある場合は具体的に書いてください。ない場合にはないと書いてください。

[回答の要約]

- ① 突発的な事故、重症患者、夜間緊急時に不安を感じる(4施設)
- ② 救急電話対応に不安を感じる(1施設)
- ③ 家族対応に不安を感じる、患者にわかる説明がなされていない(2施設)
- ④ 急性期を学んでいないためのアセスメント不足(1施設)
- ⑤ 特になし(10施設)

4) 異文化(看護師と患者のもつ文化が互いに異なること)について

(1) 外国人看護師は日本文化・社会・日本人を理解していると思いますか。

[回答の要約]

理解しているまたは理解しようと努力している、77.4%(24/31)、理解しているとは言えない、22.6%(7/31)であった。

(2) 異文化は外国人看護師における看護の質に影響を与えますか。具体的に説明してください。

[回答の要約]

影響がある、ある可能性がある（6施設）、影響があるとは思はない（11施設）、どちらともいえない（2施設）、その他（2施設）であった。

5) どのような支援があればよいとお考えですか。

[回答の要約]

- ① 合格後の日本語教育のサポート、日本文化の教育、メンタルサポートが欲しい。
- ② 外国人看護師間の交流の場（研修でもよい）がほしい。
- ③ E P A看護師を受け入れている施設の日本人看護師間の交流の場があってもいいのではないか。情報交換ができる。
- ④ 日本人看護師や施設側も外国人看護師の出身国の文化を勉強する機会がほしい。

Ⅲ 調査総評

本アンケートは大部分が記述形式であるため回答には時間を要したと推測されるが、38.6%（22/57）の施設より回答をいただいたことに感謝したい。

1 外国人看護師の業務評価について

評価対象業務は昨年度の11種に、検査や診察の介助、静脈注射、輸液管理、退院指導、排泄援助、食事介助の6種を加えて、計17種とした。評価は外国人看護師と同期入職の日本人と比較したもので、各施設の主観的判断によるものであり、すべての施設に共通した判断尺度によって客観的に評価したものではない。したがって、本調査の結果に対する信頼度は限定的である。

大変嬉しいことに、日本人看護師よりも「優れている（S）」の評価を得た者は昨年度の調査では1名（バイタルチェック・報告・相談）であったが、本年度は5名に増加した。この5名のうち3名はほとんどすべての業務で（S）の評価を得ている優秀な看護師であるが、5名に共通する不得意業務は「看護記録への記入」で、その評価は「やや不足（2）」4名、「不足（3）」1名である。

外国人看護師にとって、看護専門用語や漢字を使用する看護記録能力を習得することは大変困難でかなりの時間と努力を要すると推測される。昨年度の調査においても同様な結果を得たので、当法人では「書く」能力を向上させることを目的としたクラスを土曜日午後に新設したが、効果を上げることができなかった。今後の検討課題としたい。

E P A外国人看護師はすでに出身国で2年以上の看護師経験があるので、多くの業務において日本人看護師に遜色ない業務遂行が期待されるが、我が国での業務成績には日本語能力が影響していると考えられる。「バイタルチェック」、「静脈注射」、「輸液管理」、「排泄介助」、「食事介助」などは通常の日本語能力で遂行できるが、「夜間当直時の緊急対応」、「退院指導」、「医師などとのコミュニケーション」にはより高度な日本語能力や知識が要求される。そのため、これらの業務に対する評価が低いと考えられる。しかし、日本での勤務経験が長くなるにつれて、これらの業務成績も向上する傾向がみられる。今後の調査に期待したい。

2 外国人看護師の日本語能力について

昨年とほぼ同様な結果であった。外国人看護師は合格後も引き続き日本語能力を向上させる努力が求められている。施設側からもそれを促すよう協力してほしい。当法人では、東京（大森）で、毎週土曜日（10:00～16:00）に合格者を対象とした日本語教室（「看護と介護の日本語教室」）を開講しており、いつくかの施設へ外国人看護師を参加させてほしいと協力をお願いしたが、正看護師として日本人並に働くことを前提にしている施設が多く、1施設を除き、この日本語教室に参加できるシフトを組むことに協力していただけない現状である。外国人看護師に能力を存分に発揮していただき、施設にも満足できる貢献をしていただくためには、日本語能力のさらなる向上が必須であると考え。施設側のご苦勞も多いと思うが是非ご協力をお願いしたい。

3 外国人看護師の特徴

日本人よりも優れている点を多く挙げていただくことができたことはとても嬉しいことであった。昨年度に比し、外国人看護師への評価が上がっていると感じた。

看護協会はEPA看護師受け入れについて、リスク管理上の問題が生じるのではないかと懸念を示している。本調査ではリスク管理上の問題点として、緊急時の対応、電話対応などに不安を感じている施設があるが、施設側の対応が十分になされており、事故はおきていない。また、特にリスクはないと回答した施設も50%ほどあった。しかし、これらの業務を課していない施設も多いので、結論を出す段階ではない。引き続き調査を行う。

4 異文化と看護の質

この設問は本年度に開始したものである。外国人看護師と我が国の文化の違いが看護の質にどのような影響を与えるかを知る目的で設問したが、設問の意図がわからないという回答もあった。外国人看護師（77.4%）は日本文化への理解を深めようと努力をしていることが明らかになったが、外国人看護師の日本語能力がまだ十分ではないので、異文化の看護の質への影響について論じる段階ではなさそうだ。

5 その他

合格後の日本語教育、日本文化の教育、メンタルサポートなどについて公的サポートが必要であると考え。

施設側にも外国人看護師の出身国の文化を勉強したいとの意見があった。外国人と施設がともに異文化理解を深める態度が、外国人看護師受け入れ成功に不可欠であると思う。

当法人では、教育支援のみならずメンタルサポートについても担当できる専門家を用意しているので活用していただければ幸いである。